

# 集合住宅と戸建て住宅が 混在共棲するふつうの街への再生 —人間サイズのまちの再生 若宮地区震災復興住環境整備—

KS  
DP 関西大学  
戦略的研究基盤  
団地再編  
リーフレット  
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業  
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER  
2012  
VOL.090

## ■団地再編における若宮事例の意味

わが国において、計画的に、集合住宅と戸建て住宅を混在共棲させた事例はなかった。「混ぜる」という手法は、機能純化を目指した20世紀の計画手法にはなかったと言ってよい。しかし、普通の町の魅力は混在であり、再生に際して江川の言う「小さく解く」「混ぜて解く」（注1）の貴重な実例としてここで取り上げる。

## ■若宮地区震災復興住環境整備

若宮地区は、芦屋市のほぼ中央に位置しており、人口は、261世帯、約550人、約2.3haの小さなエリアだが、震災前から密集市街地で、阪神・淡路大震災により、甚大な被害を受けた。芦屋市は、いち早く若宮地区を復興事業地区に位置づけ、再生案を住民に提示した。地震から4ヵ月後の5月に市が提示した案は、震災で壊れたすべての家を撤去し、その地区をすべて集合住宅にしてしまうという案。多くの住民の反対により、さらに2ヵ月後の7月に提示した案は、地区にある4つの街区のうち、2つの街区を集合住宅の街区に、ひとつをタウンハウス（庭付きの集合住宅）に、もうひとつの街区を独立住宅の街区に再生しようという案だった。

これでは、自分達が今まで暮らしてきた街の再生にはならないと、「まちづくり協議会」を設立し、まちづくりコンサルタントや建築家といった専門家の支援を得て、自分たちが納得できる案を行政とも協働して作成、市長に提出、芦屋市はこれに賛同し、行政・まちづくり協議会・専門家の協働によって具体の計画を推進することになった。もともとの



写真1. 戸建て住宅のあいだに垣間見える公営住宅（若宮町住宅）現況道路のつきあたりに「当て曲げ」手法で、公営住宅の通り抜け路地階段が連続している

街は、密集市街地で、安全上も環境上も問題があったが、「路地」などもあり、雰囲気の良い部分もあった。新しく再生する街は、もともとの街の問題点を解決しながら、その雰囲気の良さをさらに高めていこうという提案である。つまり、自力復興す

る独立住宅の間に、小規模な公営集合住宅を分散して配置し、独立住宅と小さな集合住宅が混在する街に再生しようという提案で、建築の中に、「路地」のような雰囲気の良い小さなフットパスを挟み込み、街の公共的な空間、つまり道路や広場と連続

させようという案である。新しくつくる街には、制度上、狭い幅員の道路はできないが、こうすることによって、「路地」のような気持ちの良い狭い通路ができる。こうすれば、建築の中に「すき間」をつくることになって、街の中を気持ちの良い風が吹き抜けていく。また、「すき間」からは、地区の北方にある六甲山を見ることができる。六甲山を見ることができるとは、昔からこの地区に住んでいる住民にとっては、大切なことであり、そういった地域性をなくしてはいけない。地区の中に分散して配置される小規模な集合住宅も、できるだけ、地区内の独立住宅と馴染むように、ボリュームのスケールを小さくした。色や、素材も、小さなスケールに分割し、すき間の「路地」や「開放的な階段」には、木陰を作り出す樹木を植えている。駐車場や広場も、できるだけ緑で仕上げ、昔あった「原っぱ」のような仕上げにした。街の中には、自分達で花を植え、育てることが出来るようなスペースを沢山ちりばめて、いつも人気（ひとけ＝人のいる気配）が感じられるようにした。その結果、安心感のある「まちなみ」が実現している。（注2）



図1.若宮地区の現況と被災状況(赤:全壊)

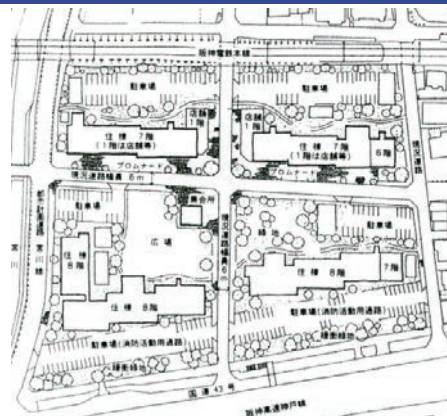


図2. 5月に市が提示した全面集合住宅案



図4. 実施計画

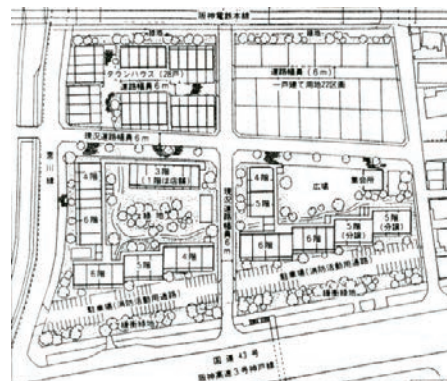


図3.7月に市が提示した修正案(N T的案)



写真2.そこかしこに出現する通り抜け路地



写真3. 自力再建した戸建て中心のまちなみに溶け込む公営住宅



写真4,5. 戸建て住宅と馴染む公営住宅

注1：明舞団地再生コンペ優秀賞提案（現代計画研究所大阪事務所+関西大学江川研究室）、「都市住宅学」no.56、p94-103参照

注2：2001年度兵庫県人間サイズのまちづくり賞、2001年度関西まちづくり賞、2006年度地域住宅計画賞、2006年度都市住宅学会賞・業績賞など受賞

『集合住宅と戸建て住宅が混在共棲するふつうの街への再生—人間サイズのまちの再生 若宮地区震災復興住環境整備—』

執筆：江川直樹（関西大学 教授）

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成23年度～平成27年度）」によって作成された。

発行：2012年9月

関西大学  
先端科学技術推進機構 地域再生センター  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室  
Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)  
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>